

学校名	芋井小学校		
ホームページURL	www.imoijs.city.nagano.nagano.jp	児童・生徒数	89名
(1) テーマ 「『芋井甚句』を探る」 テーマの分類 (③) 下記の欄外記載事項を参照してください。		(2) 活動の単位に○をつけてください 学級・同一学年・3～4年 5～6年・学校・ その他 () 該当学年 6年 (回答可能な場合)	
(3) 活動のねらい 自分たちが運動会で発表する「芋井甚句」の歌詞を調べることを通して、地域の人々の暮らしや芋井の文化について興味・関心を持ち、自ら課題を見つけ、その解決に主体的に取り組む力を育てる。			
(4) 活動の実際 (活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等) ① 自分の家族から情報を集める。 ② ①から発展的に、地域の人・地域の施設や機関などに調査活動、取材に出かける。 例えば、○インタビュー ○アンケート ○電話 ○会報や新聞 ○インターネット などの手段を活用しながら調査活動を進める。 時数 (19～22)			
(5) 指導体制 (校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等) 本校独自に「総合的な学習の時間」でつけたい力を「自ら学ぶ力」「豊かな心」の2視点を具現するために、 ① 自ら疑問・関心を持ち、追究したい事柄を明確にする問題解決的な学習で進める。 ② 授業の中で体験的な学習の場を取り入れる。 ③ 人との関わりの中で、自己の役割や責任を感じると共に、感謝や感動の心をもつ場を設定する。			
(6) 指導上の留意点 (時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等) ○地域での人材発掘こそ「人との関わり」の大切なことなので、教師は案を持っているが児童に調査させる。 ○調査内容や項目、訪問日時などは、児童からも調査先に知らせるが、担任からも文章で依頼書を提出する。また、事後指導でもお礼の手紙を書かせると同時に文章で礼状を出す。 ○運動会や公民館主催の芸能祭などで、学習してきた「芋井甚句」を篠笛やお囃子も児童が担当して発表する。			
(7) 評価 (基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際) ○一人ひとりの児童の課題の設定から学習のまとめまでの過程をできた、できないという到達度的な評価で捉えずに、その子なりの「学びの仕方 (HOW TO)」を評価する。 ○家庭への評価の連絡は、通知票の所見欄に文章で記載する。学習指導要録には「指導上参考となる諸事項」に記載する。			
(8) 成果と課題 ○地域素材の教材化を具現するためには、教師自身が地域の伝説や情報などを収集するのに時間がかかる。そのため、学習の立ち上げが6月に入り込んだ。(4～5月は地域巡りに重点を置いた) ○児童の実際の調査活動は、個々の課題が違いため地域内外の広範囲におよんだため、夏休みの個人課題として対処してきた。そのため、調査活動の実際を評価することができない。			

※テーマの分類 ①横断的・総合的な課題 (①ーア 国際理解 ①ーイ 情報 ①ーウ 環境

①ーエ 福祉・健康 ①ーオ その他) ②児童生徒の興味・関心に基づく課題 ③地域や学 校
の特色に応じた課題